日本のカバマダラ—1970年本州の2つの記録と渡りについての考察—

高 橋 昭
愛知県大府市大府町ガンジ山 38-267

Danaus chrysippus in Japan. Two new records from Honshû in 1970 and some comments on migration.

Akira Takahashi

カバマダラ *Danaus chrysippus* Linnaeus, 1758* は西は Canary 群島, Africa 大陸, Greece, Turkey, Arabia 半島を経て Asia 大陸の南部すなわち Himalaya 山脈より南側一帯に分布し, 東は中支, 台湾, Philippines, New Guinea, Australia 北部にまで達する広範な棲息圏をもったマダラチョウ科の1種である. 台湾や Philippines では土着しているが, 琉球列島では多くの島から記録されているものの, 必ずしも毎年越冬しているものではなく, また九州本島以北ではいわゆる偶産蝶や迷蝶と呼ばれているように, 特殊な年を除いては夏から秋, 特に8月以降に少数の採集例があるに過ぎない.

本州では, これまでに西から山口, 鳥取, 兵庫, 大阪, 和歌山, 三重, 静岡, 神奈川, 千葉, 長野, 新潟の11府県で採集または目撃の記録があるのみである.

筆者は1970年に三重県で1頭を目撃し, また静岡県で1♂を採集した. これらの例とともに本州での全文献例を集め, また周辺地区での採集例や観察との関連から渡りについて検討を加えたので, ここに報告する.

1970年 筆者自身の目撃採集記録

1970年8月30日

三重県度会(わたらい)郡大宮町滝原 (標高約 100m)

1頭 目 撃

この日は停車中の乗用車の窓ごしに眼前1mばかりのところを飛んでいる本種を発見し, 直ちにネットを取り出して同行の浅井弘三氏と2人で追ったが, 人家の並んだところで見失ってしまった. Danaidae 特有の飛び方であったのでツマグロヒョウモンやメスアカムラサキ♀とは明らかに異なっており, またスジグロカバマダラと誤ったようなこともない.

1970年9月13日

静岡県浜北市上島, 天竜川右岸 (標高約 40m)

1♂ 前翅長 38mm.

採集地は天竜川畔の平坦なイモ畑で, 堤防の上からゆっくり下りてきたところを採集した. 個体は新鮮完全で Fig. 1 に示すように前後翅表外縁の黒帯がよく発達し, 特に後翅では黒帯が幅広く, この中の白斑はすべて消失しており, また翅脈に沿って基底部に向かい黒縁の流れがみられる. 黒沢氏 (1966)[19] の提唱される Philippines 型である.

本州におけるカバマダラの文献記録

1) 山 口 県

1937年8月18日, 防府市富海で上村氏により1♀が採集されているというが[10], 原著が不明のため詳細はわからない.

---

* *Panlymnas* 属や *Limnas* 属として扱われることもある.

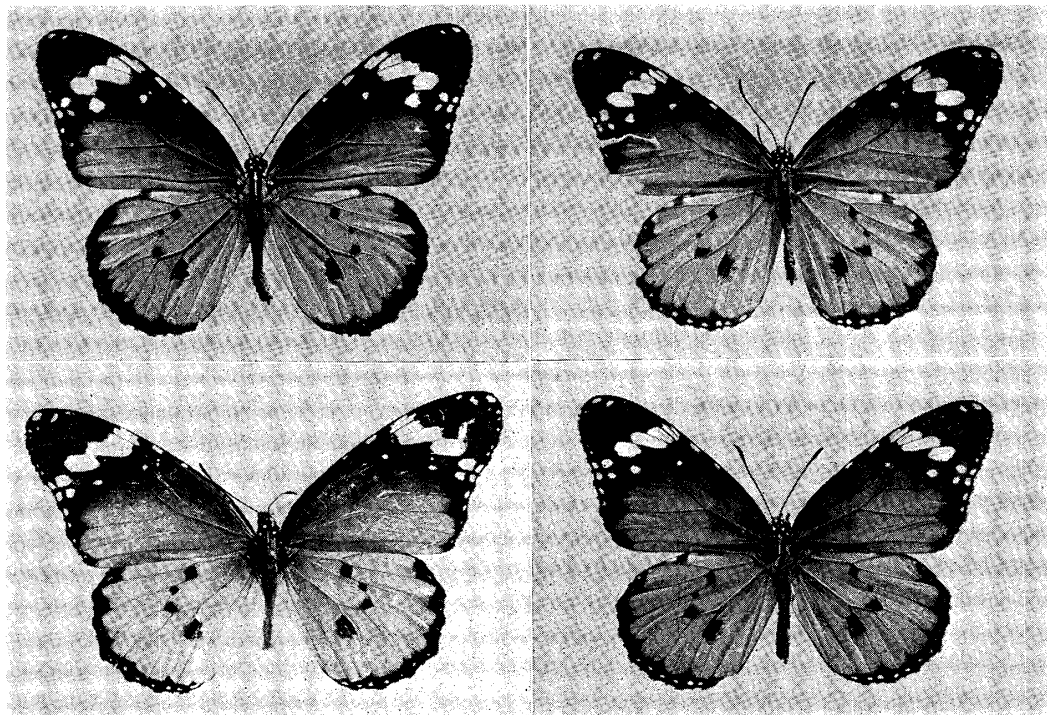



Fig. 1. 日本および Philippines 産カバマダラ♂.
左上：静岡県浜北市上島，13. ix. 1970，高橋昭採集， 左下：兵庫県氷ノ山，2. viii. 1957，山本広一氏所蔵， 右上：鹿児島県トカラ列島中之島，28. v. 1962，石田昇三氏採集， 右下：Baguio, Luzon, Philippines, 7. vii. 1970，佐藤正孝氏採集.

2) 鳥 取 県

1958年7月16日，大山にて1頭が目撃されている[21].

3) 兵 庫 県

これまでに1♂2♀♀が採集されており，本州の中では採集回数が多い県である.

最初の記録は1957年8月2日，氷ノ山頂上付近で1♂が採集されたもので[26]*，次いで1965年7月14日に神戸市東灘区本山町で1♀が[27]，また同じ年の8月8日に加古川市西神吉町鼎で1♀が採集された[46]．同じ年に相接した時と場所で得られたことは，後記の千葉県の記録とともに注目すべきことである.

なお氷ノ山の1♂と加古川市の1♀とは山本広一氏のところに所蔵されている[46]が，写真でみると両者はともに後翅外縁黒帯中の白斑の発達がよくない.

4) 大 阪 府

1937年8月15日，大阪市西成区玉出付近で1頭の目撃記録がある[2]．前述の山口県の記録と3日違いの記録である.

5) 和歌山県

伊都郡の目録[40]中に「アダニテフ *D. chrysippus* L.」と記載されている．説明がない種名だけの目録であり，しかもこの目録中にヤマキチョウ，ヒメヒオドシ，ヒョウモンチョウ，フタスジチョウ，オオルリシジミなどの疑問種が多く含まれており，カバマダラの信憑性は乏しい．本種の正式の記録としては除外しておく方が妥当と考えられる.

6) 三 重 県

具体的な目撃あるいは採集例の報告はない．大川親雄氏 (1954)[31] が「尾鷲地方の同好者の間にはカバマダラ，

* この標本の写真は山本広一氏のご好意により，ここに発表させていただくことができた (Fig. 1 左下).

メスアカムラサキ，ヤエヤマムラサキなどが採集されたと伝えられる」と記載されたことがあるに過ぎない．三重県の迷蝶の記録を集めた坂部元宏氏（1970）[34] によればカバマダラの確実な記録はないという．

7）静　岡　県

熱海の記録[4] があるが，その詳細は不明である．

1965年9月18日に磐田郡水窪（みさくぼ）町神原区大里仲町鉄道宿舎付近で1頭（性不明）が採集された[8]．この前日は台風24号が襲来し，丁度愛知静岡両県を中心が通っている．静岡県での唯一の採集例であるが，性不明と記載されており，写真も添付されていない．

8）神 奈 川 県

1970年8月9日，三浦半島荒崎海岸三崎街道矢作付近で1頭目撃の記録がある[38]．

筆者が本報告で扱った三重県，静岡県の例と同じ1970年の報告である点注目したい．

9）千　葉　県

1966年に2カ所で19♂♂3♀♀が採集，このほかにも多数目撃されたらしい．すなわち9月4日5♂♂，同11日11♂♂3♀♀が柏市布施弁天で[9]，また11月6日には柏市と我孫子町の境界付近で3♂♂が採集された[20]．

これらの標本を実際に検討された黒沢良彦氏（1966）[19] は「台湾や中国に産する基本型は後翅の外縁の黒帯中に明瞭な白斑列を現わすが，Philippines のものではこの白斑が大半または全部消失し，黒縁が翅脈に沿って内方に多少流れる傾向があるものが多く，特に南部のものにこの傾向が著しい」と地理的変異のあることを述べ，1966年に千葉県で採集された個体はすべて Philippines 系のものであるとした．

千葉県柏市の16♂♂3♀♀は利根川べりで採集されたことが記されているが，筆者の1970年浜北市で得たもの，および1930年の長野県上伊那郡の個体[25] も天竜川べりで採集されており，本種の採集地として興味深い．

10）長　野　県

上伊那郡中沢村（現在の駒ケ根市）の天竜川原で1930年9月3日，宮坂俊氏により採集された[25]．

11）新　潟　県

1957年8月24日，直江津市五智国分寺境内で樋田正一氏により1♀が採集された[12]．本個体には♂として発表されたが写真でみると♀が正しい．

この記録は本種の分布の最北東端に当る．

この年の8月下旬は台風7号が来襲し，21日には新潟地方は Föhn 現象がおこり35.4°C を記録した．

写真によれば後翅表外縁黒帯中の白斑は本州採集例中もっともよく現われており，中国や台湾の基本型といわれるものかも知れない．

以上が本州でのカバマダラの目撃または採集記録のすべてである．卵や幼虫は九州ではトウワタ および1960年9—10月に長崎県南高来郡でロクオンソウから発見されているが，本州では成虫以外の記録はない．

年度別にみたカバマダラの記録

九州本島以北でのカバマダラの最初の発見は1930年9月3日，長野県伊那谷[25] におけるものである．この年も，大阪府[2] と山口県[10] と本州の2カ所で発見された1937年も，ともにそれぞれの年度内における九州・四国でのカバマダラの記録はない．

1957年には本州では兵庫県[26] と新潟県[12] とで1♂1♀が採集されているが，九州本土から奄美諸島にかけて本種の記録がない[7]．

1965年には兵庫県で2♀♀[27][46]，静岡県[8] で1頭が採集されたが，この年は喜界島（6月15♂♂10♀♀）[22]，屋久島（7月成虫・卵多数）[16][50]，鹿児島県枕崎市（7月—11月成虫・卵多数）[48]，川内市（11月1♀）[41]，揖宿郡（10月→1966年1月成虫・幼虫多数）[11]，肝付郡（7月1♂1♀）[17]，熊本県玉名市（10月1♂）[33]，佐賀県神埼郡（8月1♂）[1] などでも記録されており，各地で相当の個体数が発生したことが推察される．この年の冬は枕崎市で幼虫や蛹で越冬し，翌1966年3月に1♂2♀♀が羽化している[47]．またトカラ列島宝島で1966年3月に成虫，卵，

初令幼虫がみ出されており[18]，わが国において越冬，および越冬世代が次の世代を残し得た冬の記録として注目しておきたい．

1966年は千葉県でカバマダラが，一挙に19♂♂3♀♀が採集された年である[9][20]．この年はトカラでは既に3月から記録されているが[18]，夏以降は奄美大島（7月—10月多数）[30][32]，屋久島（8月3 Exs.[23] その他[16]），鹿児島市（8月1 Ex.）[29]，鹿児島県肝付郡（8月2 Exs.[23]，10月3♀♀ほか[14]），揖宿郡（8月1 Ex.）[23] 佐賀県東松浦郡（9月，1♀）[51] などの記録があり，本種の記録が多い年である．

佐賀県[51] と，千葉県[9][20] のものは成虫標本の写真が発表されており，ともに後翅表外縁黒帯がよく発達した個体である点も興味深い．

1967年は石垣島（3月幼虫多数）[24]，奄美大島（8月～10月多数）[36][42]，口永良部島（8月2♀♀，2令幼虫ほか）[44]，屋久島（8月1♂2♀♀ほか7 Exs.）[15] などと南西諸島では発生量が多かったことが報告されているが，鹿児島県枕崎市ではトウワタが例年になく繁茂したにもかかわらず7月27日1♂が採集されたのみで[49]，それ以外に九州本島で発見されなかった．本州でも記録がない．

1968年は奄美大島での10月の2♂♂2♀♀[43] 以外には全く記録がない．この年の夏は雨が多く，太平洋高気圧の発達が悪く冷夏であったため，カバマダラ以外の南方系の迷蝶も記録がきわめて乏しい年であった．

1969年は奄美大島（8月[13]，10月11 Exs.[42]），喜界島（8月21♂♂6♀♀[13]），長崎県（10—11月多数[5]），の記録があるが，鹿児島県九州本土や本州で記録がない．

1970年は8月9日神奈川県[38] での目撃に始まり，本報で筆者が報告した8月30日三重県での目撃，静岡県での9月13日の1♂の採集など本州における記録が3つある．まだ紙上に報告されていない九州以南の記録もあるかも知れないので，現在のところこの年の発生の実態は充分には把握できない．1970年を除いて，南西諸島の調査が進んだ最近数年について，本州，九州，南西諸島のカバマダラの年度別の記録をまとめてみると，次のような現象があることがわかる．

本州での記録のある1965年，1966年はともに九州本島や南西諸島にもカバマダラが多く発生した．

また1962年や1965年のように九州本島で多くみられた年には南西諸島でも記録が多い．

しかし逆に1959年や1967年のように南西諸島で発生が多かったにもかかわらず，九州本島では余り記録されていない年がある．

これらの事実から次のような推測が可能かと思われる．

1) 本州にみられる年は一般に九州本島や南西諸島の発生量が多い．
2) 九州本島に多く発生する年は南西諸島にも多く発生している．
3) 南西諸島に多く発生していても九州本島には少ない年がある．このような年は本州でもカバマダラを見ることは少ない．

1970年度の台風との関係

カバマダラが九州本土以北で越冬し，くりかえし発生し世代を重ねるということは原則的には否定されている以上，本州での記録は迷蝶として扱われ，かつその発生源を南方地域のどこかに求めなければならない．その飛来様式については以前から台風の関与が考えられており，事実1957年新潟県の記録[12] は台風7号による新潟地方の **Föhn** 現象が8月21日におこった3日後に採集されたものであり，1960年静岡県の記録[8] は台風24号通過の翌日に採集された個体である．

1970年の3頭のカバマダラが，その年に日本に来襲した台風と関係があるとすれば，2号，9号，10号，11号の4つの台風である（Fig. 2）．

2号は6月29日に12°N, 138°E の Caroline 群島 Yap 島近くで発生し，7月4日奄美大島，5日に四国南方を通り，6日に山陰地方で消滅した．

9号は8月9日に23°N, 132°E で発生し，14日に九州へ上陸，山陰地方を通って日本海へ抜けている．

10号は8月16日に20°N, 143°E の Mariana 群島付近で発生し，北北東へ進み，8月21日に四国へ上陸し，山

陽から山陰へ貫通し日本海へ抜けた.

11号は8月24日 17°N, 131°E 付近で発生し，奄美群島を通って東支那海へ抜け，朝鮮半島西岸に沿って北上した.

1970年の台風のうち8月末までに，本土に何らかの影響を及ぼしたものは，この4つであるが，いずれも Philippines 群島や，台湾を経由していない.

1970年本州での3頭の記録が発生源が同じで，かつ同一台風によって運ばれたものとすれば神奈川県の8月9日の記録以前に本土に影響を及ぼした2号台風以外にない.

2号台風の経路と時間は上記したようであるが，沖縄や奄美を経由しているので，この地域の1970年の発生はどのようであったか資料の発表が望まれる．また2号台風は山陰地方で消滅しているので，カバマダラが台風によって運ばれ，それが本州に置き去りにされるには説明しやすい．1970年の記録が三重，静岡，神奈川といずれも2号台風の東側に集まっていることも，この台風との関係を示唆するものかも知れない.

台風以外に本種を日本へ運んで来る気象上の因子としていわゆる小笠原高気圧と呼ばれる太平洋高気圧や，夏の季節風の可能性についても考慮されねばならない.

例えば赤道に近い内南洋地方の Palau 島付近 (6～7°N, 134～135°E) では7月から11月ごろまで南西の風が吹き込む．一方日本近辺の夏では南東の季節風が吹いている．このような夏の気圧配置と風の作用がカバマダラを日本にもたらすとすれば，Philippines 群島およびそれ以東または以南の地域も発生地あるいは中継地としての可能性をもってくることになろう.

Fig. 2. 1970年に日本へ影響を及ぼした台風の経路 (発生地の数字は台風の号数を示し，日本列島付近の数字は上陸した日付を示す). ★ 印は 1970年の本州のカバマダラの記録.

これらの発生源の追究は，カバマダラ以外の南方系の蝶，例えばリュウキュウムラサキ，*Catopsilia* など地方型が分化した種の飛来ともかみ合わせて資料を集め分析すれば，興味深い結論をもたらすものと思われる.

また1つの台風によって発生源から日本へ直接運ばれて来るといった単純なものでなく，A台風がL地からM地へ，B台風がM地からN地へといった組み合わせや，季節風，高気圧，台風などの複雑な組み合わせによる連合作用も当然考えねばならないだろう.

台風にしろ，季節風にしろ，風が迷蝶を運ぶものとした場合，上陸地の地形の影響も無視できない．背後に標高の高い山地をもつ海岸地方では到達がしにくいことが考えられる．例えば台湾に南東の風が吹き，これに迷蝶が乗った場合，むしろ迷蝶が到着しやすい土地としては標高が低い先島諸島や，蘭嶼（紅頭嶼）であろう．九州本島でも同様で，大隅諸島，トカラ列島がこれに相当し，また南東の風が直接当る宮崎県や大隅半島よりも，九州山地の背後にあたる九州の西側に記録が多いことも首肯できるのではなかろうか.

斑紋形態と発生源との関係

カバマダラの分布はアフリカから南部ヨーロッパ，アジア州と広いが，地方型（亜種）についての詳しい研究は

ない．アフリカやインドには後翅表の橙色の地色が白化した個体が混じっており，f. *alcippus*，あるいは f. *alcippoides* と呼ばれているが[37)45)]，このような個体は日本およびその近辺では採集されたことがない．

黒沢氏（1966）[19)]は，中国や台湾に産するカバマダラの基本型は，後翅表の外縁黒帯中に明瞭な白点列を現わすが，Philippines 産のものではこの白点が大半または全部が消失し，黒帯が翅脈に沿って内方に多少流れる傾向のあるものが多く，特に Philippines 南部のものにこの傾向が著しく，中国または台湾起源のものと Philippines 起源のものとは，はっきり識別することができ，その個体の飛来源を推定することが可能であるという．

これまでに本州で採集されたカバマダラの写真を見ると，1957年の新潟県産の個体[12)]が，やや白点列が発達しているほかは，いずれも白点列の発達が弱く，筆者の採集した静岡県産の1♂は，この白点列は完全に消失している．

筆者の手許には若干のカバマダラの標本があるが，特にこの白点列の出現度を注意して検討してみると，アフリカ産，Philippines（Luzon 島，Cebu 島，Bohol 島）産，Borneo 島（Sarawak）などは出現度が低く，Thailand，台湾産などでは高い傾向にある．残念ながら中国大陸産や，New Guinea 島，Australia などの標本は実際にみることができなかった．

ちなみに図鑑や写真で，この後翅表黒帯中の白斑を注目してみると，白水隆氏の台湾産の図鑑で図示されたもの[39)]では11—13個，ビルマ産の♂[35)]では11個，Canton 産のカバマダラのタイプ標本[3)]も11個程数えられる．

しかし，本種のように漂飛移動する習性のある蝶は，地方型の検討は慎重でなければならないので，今後多くの採集個体についての研究を期待したい．

ま と め

1. 1970年8月三重県における1頭の目撃，および同年9月静岡県浜北市での1♂の採集例を報告した．

2. 本州では山口，鳥取*，兵庫，大阪*，和歌山*，三重*，静岡，長野，新潟，神奈川*，千葉の11府県で記録があるが，このうち＊印は目撃または詳細不明の記録である．和歌山県の例は信憑性に乏しい．

3. 南西諸島の調査が進んだ最近数年間の年度別の記録を検討すると，本州で記録のある年は九州や南西諸島でも多く発生しており，九州本島で記録の多い年は南西諸島でも多産したが，南西諸島で多く発生した年でも九州本土や本州では稀またはみられなかった年がある．

4. 冷害の夏といわれた1968年は奄美大島以外の記録がない．

5. 本州での記録を月別にみると7月1回，8月4回，9月4回，11月2回で，九州以南の記録に比し，7月が少なく，6月以前がない．

6. 1965—1966年の越冬が，トカラ宝島と，鹿児島県枕崎市で，1966—1967年の越冬が石垣島で観察されている．トカラ宝島と，石垣島では越冬世代が次の世代を残したことも報告されている．

7. 九州では食草としてガガイモ科の栽培種トウワタと自然種ロクオンソウが記録されているが，本州では幼生期の記録はない．

8. カバマダラの飛来に台風が関与している可能性があるが，それ以外に小笠原高気圧や夏の季節風の影響も考慮する必要がある．

9. 成虫の斑紋からみると，これまで本州で採集されたほとんどの個体は，東南アジア大陸や台湾産よりも Philippines 産の個体に近い．今後は Micronesia の産否および New Guinea, Australia 産なども検討する必要がある．

多くの有益な助言をいただいた九大白水隆教授，福田晴夫氏，兵庫県産について写真を提供して下さった山本広一氏，そのほかご協力を惜しまれなかった有田 豊，浅井弘三，石田昇三，佐藤正孝，高橋真弓，滝田康一の諸氏に厚くお礼申しあげる．なお1970年の台風の経路については名古屋地方気象台の大塚省三氏から data を教えていただいた．併せて感謝の意を表したい．

文 献

1) 秋山利夫：九州の迷蝶—佐賀県—，くろせせり (3)：11-12，1966.

2) 朝田文造：大阪で発見した珍しい昆虫，昆虫界 6(46)：58, 1938.
3) Corbet, A. S. & Pendlebury, H. M.: Butterflies of the Malay Peninsula, 2nd ed., Oliver & Boyd (Edinburgh, London), Pl. 29, 1956.
4) 江崎悌三・白水 隆：日本の蝶〔9〕，新昆虫 3(11)：366-368, 1950.
5) 江島正郎・松本岳士・守家泰一郎：1969年長崎県の迷蝶，昆虫と自然 5(5)：9-10, 1970.
6) 福田晴夫・田中 洋：鹿児島県のチョウ類概説，鹿児島の自然（鹿児島県理科教育協会），pp. 283-301, 1964.
7) 福田晴夫・田中 洋：鹿児島県の蝶の生活（鹿児島昆虫同好会），pp. 46-48, 1967.
8) 福田安男：水窪町のカバマダラとクジャクチョウの記録，駿河の昆虫 (55)：1528, 1966.
9) 長谷川清・長谷川清次：千葉県柏市でカバマダラ多数を採集，自然科学と博物館 33(11/12)：204, 1966.
10) 幡田克彦：山口県における蝶の分布（個人出版），1964.
11) 迫口昭良：カバマダラの採集と飼育観察，SATSUMA 15(45)：31-32, 1966.
12) 樋田正一：直江津でカバマダラを採集，新昆虫 10(12)：35, 1957.
13) 平井正人：奄美でリュウキュウムラサキとカバマダラ採集，昆虫と自然 5(7)：33, 1970.
14) 今村哲夫：1966年の採集ノートより，SATSUMA 16(48)：26-27, 1967.
15) 今村哲夫：屋久島蝶採集記，SATSUMA 17(51)：72-75, 1968.
16) 伊藤建夫・吉崎和幸・岩永晶一：屋久島におけるウラナミジャノメの発見および4種の注目すべき偶産蝶について，蝶と蛾 18(1/2)：39-40, 1967.
17) 上宮健吉：大隅半島の大根占町でカバマダラ，SATSUMA 15(45)：33, 1966.
18) 上宮健吉：トカラ列島（口之島，宝島）の蝶の記録，SATSUMA 15(46)：57-58, 1967.
19) 黒沢良彦：カバマダラと台風，自然科学と博物館 33(11/12)：205-207, 1966.
20) 黒沢良彦：千葉県のカバマダラ後記，自然科学と博物館 34(3/4)：66-67, 1967.
21) 増井武彦・中谷貴寿・吉阪道雄：鳥取県大山にてカバマダラを目撃する，新昆虫 11(13)：40, 1958.
22) 宮之原栄蔵：喜界島6月の蝶の記録，SATSUMA 15(46)：75, 1967.
23) 宮脇憲蔵：1966年度昆虫展より（迷蝶記録），SATSUMA 16(47)：15-16, 1967.
24) 長嶺邦雄：3月の石垣島・西表島の蝶，SATSUMA 18(55)：118-119, 1970.
25) 中条 薫：上伊那教育会所蔵蝶類目録，信州昆虫学会松本支部報 (44)：97-104, 1953.
26) 中尾淳三：氷の山附近の蝶相，Natura（兵庫県立柏原高等学校生物研究会）(16)：15-23, 1959.
27) 成瀬秀雄：神戸市でカバマダラを採集，蝶と蛾 17(1/2)：27, 1967.
28) 西岡鉄夫：屋久島の蝶2種，熊本昆虫同好会報 12(27)：8, 1966.
29) 大我俊輔・上宮健吉：鹿児島市でカバマダラを目撃，SATSUMA 16(47)：16, 1967.
30) 岡内駿介：奄美大島秋の蝶類採集目録，SATSUMA 16(49)：62-64, 1968.
31) 大川親雄：三重採集報告(1)，日本昆虫学会東海支部ニュース (1)：6-8, 1954.
32) 大越智恒和：1966年夏の奄美大島採集品，熊本昆虫同好会報 12(27)：3, 1966.
33) 大塚竜也：カバマダラ熊本県で採れる，熊本昆虫同好会報 13(28)：24, 1967.
34) 坂部元宏：三重県で採れた熱帯性偶産蝶のまとめ，クリヌム（三重大学教育学部生物学教室）(12)：25-30, 1970.
35) 桜木健民：ビルマの蝶，愛知の昆虫誌 4(10)：60-66, Pl. 1, 1944.
36) 佐藤知継・田畑康博：奄美大島北部の蝶採集記，SATSUMA 16(48)：21-23, 1967.
37) Seitz, A.: Macrolepidoptera of the World I, F. Lehmann, Stuttgart, pp. 75-76, 1906.
38) 杉本敏昭：三浦半島にてカバマダラ目撃，INSECT MAGAZINE (75)：50, 1970.
39) 白水 隆：原色台湾蝶類大図鑑，保育社（大阪），pp. 101-102, Pl. 28, 1960.
40) 高松重二・小林繁雄：紀州伊都郡産蝶類目録，昆虫世界 11(7)：289-291, 1907.
41) 遠竹 登：カベマダラを川内市で採集，SATSUMA 16(48)：30, 1967.
42) 宇検昆虫同好会：宇検だより(1)，SATSUMA 19(56)：15-18, 1970.
43) 宇検昆虫同好会：宇検だより(2)，SATSUMA 19(56)：18, 1970.
44) 若松昭三郎：口永良部島の昆虫採集報告，SATSUMA 16(49)：54-62, 1968.
45) Wynter-Blyth, M. A.: Butterflies of the Indian Region, Bombay Natural History Society, Bombay, pp. 69-70, 1957.
46) 山本広一：兵庫県加古川市で捕まったカバマダラ，昆虫と自然 3(3)：6, 1968.
47) 山崎文蔵・山崎淑子：枕崎の冬のカバマダラ観察記—1965年11月～1966年3月—，SATSUMA 17(51)：76-92, 1968.
48) 山崎淑子：1965年枕崎市の迷蝶記録，SATSUMA 15(45)：28-30, 1966.
49) 山崎淑子：枕崎でカバマダラ♂を採集 (1967)，SATSUMA 17(51)：94, 1968.
50) 横小路喜代信：ぼくの標本箱から，SATSUMA 15(45)：38, 1966.

51) 吉田喜美明：1966年にカバマダラ採集，昆虫と自然 5(3)：11，1970.

Summary

Danaus chrysippus, known as Plain Tiger, is a permanent resident in the subtropical or tropical Asia and appears to be resident in Formosa. It sometimes finds its way to Japan, but has never been found from N. Japan. *D. chrysippus* was first recorded in Japan in September of 1930. At Chiba Pref., a large number of examples (19♂♂ 3♀♀) were captured between September and November, 1966. This large number for the one year was remarkable as an exceptional occurrence for Honshû (Japan Main Island).

In 1970 three individuals were recorded from Central Honshû: Mie Pref. (Aug.), Shizuoka Pref. (Sept.) and Kanagawa Pref. (Aug.).

The Philippine *D. chrysippus* is said to differ from the Asia-Continental or Formosan *D. chrysippus* in its smaller white spots in broader black marginal band on the hind wing. Almost all the specimens caught in Honshû are rather allied to the former.

Both typhoon and seasonal wind during the summer season on W. Pacific region may aid the migrant flight of this butterfly to Japan. The main origin of Japanese *D. chrysippus* is therefore considered to be the Philippines and/or their nearby.

ホソバセセリの異常型

平田将士

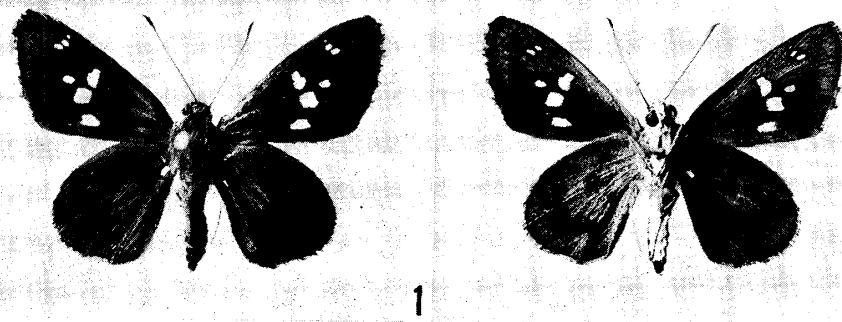
岐阜県美濃市相生町 2233

筆者は1971年夏採集された，ホソバセセリ *Isoteinon lamprospilus* C. et R. FELDER の興味ある斑紋の異常な個体を検する機会をえたので報告しておく．

この個体は後翅裏面の白斑の周辺をとりまく黒色部が発達して白斑がほとんどあるいは全く消失したもので，前翅の斑紋も写真に見られるように，全体に小さいようである．

なお，この時期は当地方におけるホソバセセリの最盛期であって，数10頭を観察したが，この個体に近いような斑紋の異常な個体は，他に1頭もなかった．

種々御丁寧な御教示をいただき，発表をすすめられた若林守男氏，並びに発表を快諾された武義高校生物部1年吉田茂君には深く感謝する．

1♂（前翅長17mm），岐阜県美濃市松森山，16，vii，1971，吉田茂採集（平田将士保管）

Figs. 1 & 2. *Isoteinon lamprospilus* C. et R. FELDER, ab.